

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3階ユニットつるさん)

事業所番号	2795900139		
法人名	医療法人三宝会		
事業所名	北加賀屋1丁目のつるさんかめさんの家		
所在地	大阪市住之江区北加賀屋1丁目6番18号		
自己評価作成日	平成28年1月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気大切に、ご利用者の「できること」「わかること」を職員と共有、共同しながら、生きる喜び、人の役に立つ喜びを感じ取って頂けるよう支援している。また、母体が、医療法人ということで、医療連携がしっかりしていることは、ご利用者、ご家族に大きな安心感をもたらしていることもあり終の棲家として、これから看取りにも取り組んでいきたいと考えています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年3月1日に法人の3つ目のグループホームとして事業所が開設され、近くもう1件が開設予定である。すべてが近隣に位置し、効率を重視した医療現場に疑問を持っている母体の医療法人とは、安心した医療の確保が構築されている。地域との連携に関しては町会活動に熱心な地域住民との交流が盛んで民生委員やボランティア等近隣住民が数多く来訪されている。職員は交代で朝・昼・晩と手作りの食事を提供し、利用者は調理から手伝い、匂いや音を感じながら食欲が湧き、笑顔に溢れ、楽しんでいる。ユニットリーダーは午前・午後や暑さ・寒さに応じて工夫し、日常的な外出を大切に支援している。管理者は就任後短い期間であるが職員の質向上を着実に図っていると共に外部評価時に新設ホーム等の予定管理者も同席され、認知症ケアサービスの質向上に意欲的に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「健康で元気で楽しく長生きで、その人らしく地域で普通に暮らす」という理念を根拠とし、管理者、職員はその理念を常に意識し、日々実践に活かしている。	人権・尊厳・個性(多様性)を尊重し、法人のグループホームが共通した理念を作成し、分かり易い所に掲示し、毎日唱和し、職員の共有を図り、理念の実践につなげている。	近く4件目のグループホームを開設する予定である。法人理念を大切にしながらも、職員が参加した事業所独自の理念をこの機会に作成することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者全員が町会に加入し、地域の一員として、町会の行事等に参加したり、小学校がすぐ前にあるので、子供達が気軽に訪ねて来たりと交流がよくある。	町会に利用者全員が加入し、祭りや老人会、小学校運動会等に積極的に参加している。町会活動が活発で民生委員や地域住民及び小学生が頻りに訪問され、日常的に交流が深い。ボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加や近隣の方にホームに来て頂き、交流をはかっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、町会役員、家族、利用者、法人代表で構成され、隔月に開催し活発に意見交換がなされている。	町会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・家族・利用者が参加し、開設1年目で4回(2ヶ月に1回)開催している。参加者からも意見を聞き、運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活支援課、介護保険課、社会福祉協議会あんしんサポートなどを利用し、日頃から情報交換をしている。	分からないことがあれば電話だけでなく、区の担当者に出向き、顔見知りを作り、気軽に話し合える環境を作っている。地域包括支援センターが主催する地域ケア会議にも参加し、情報を得るよう努めている。生活支援課からも助言を得ようとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを、入所及び入職時にご家族、職員には宣言している。但し、施錠に関しては、利用者の状況にあわせている。	原則、身体拘束は行わないことを明示し、入所時の「リスク説明」でも家族に方針を伝えていく。身体拘束ゼロの手引きを整備し、法人研修会も行い、職員の共有を図っている。安全上自由に出入りは出来ないが、日常的な外出を大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修を通して全職員が認識し、各ユニット会議等で周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社会福祉協議会のあんしんサポートの活用など職員にも周知し活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、丁寧な説明を心掛け不安、疑問にも丁寧に対応し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族などから出された意見、要望等は、職員間で共有し運営に活かしている。	家族の来訪時に要望等を聞き、運営に活かすように努めている。利用者ごとに担当を決め、毎月「近況報告書」に事実を記入し、家族に郵送している。家族会も運営推進会議時に合わせ、開催し、家族と信頼関係を図っている。苦情処理簿を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、全体会議、ユニット会議、リーダー会議等から、意見、要望を集約し運営に反映させている。	職員は毎月のユニット会議には意見を言える環境になっている。個人面談やリーダー会議・全体会議を定期的に行い、意見の把握に努めている。先輩の管理者から色んな指導を受けた現在の管理者は仕事を通じにて次期基幹職を育成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談、全体会議、ユニット会議、リーダー会議等から、意見、要望を集約し運営に反映させている。全体会議等から各自の思いを組み取り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修、職員教育を通して自己の課題、スキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	住之江区内のグループホーム会、法人内のグループ間施設での勉強会、相互訪問等の活動を通してサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用までに、ご本人、ご家族にホームを見学して頂き、困っていること、不安なことに耳を傾け顔なじみの関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いをリラックスした雰囲気の中で受け入れ時間をかけて話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人が望んでいることに耳を傾け、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴などを基に本人の「できる」ことに着目し、家事や人の役に立てることへの共同を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子などを口頭あるいは、おたよりでお知らせしたり、協力の要請等を通して共に本人を支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からの入居者も多いので、なじみの人、場所、店など利用者の状態にあわせて出かけたり来所してもらっている。	過去に住まいしていた近隣住民が区役所から知り、訪ねて来たり、詩吟の先生をしていた利用者に生徒だった方々が来訪されている。正月に実家に戻ったり、法事に出向いたり、近隣の店に菓子や果物の買い物に出かけ、馴染みの場所支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが持てるよう、コミュニケーションの場を提供したり、将棋、カラオケなど趣味の活動や小規模多機能の利用者との交流もよくある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡、おたよりなどを通して経過などを把握している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、毎日利用者と一緒にゆったり話せる時間を持つようにし、利用者の思い意向に耳を傾け、それを共有しケアに活かしている。	職員は入所時のアセスメント等で過去の生活歴を共有している。利用時には担当者を決め、家族や利用者1人ひとりから、繰り返し希望や思いを聞き、本人本位に沿った支援(好み:甘いコーヒー等)につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を職員が共有し、家族との連携も取りながら、共に協力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームケアを大切にし、本人に関わりのある方からの情報も大切にしながら、本人のできること、わかることの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やカンファレンスで話し合った結果をもとに、アセスメント、モニタリングを繰り返し本人の状態、家族からの要望に応じて臨機応変に見直し作成している。	月1回、モニタリングを実施し、家族や医師と相談しながら、現状にあった介護計画の作成につなげている。チームで定期的(6ヶ月)に見直しを実施し、家族に説明し、同意を得ている。入退院や急変時には即変更の対応を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報交換を共有し、日々の申し送りやケアの実践からの気づき等で介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意見、要望などにできるだけ応え柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括、民生委員、ボランティア、町会、商店、理容美容室、郵便局、銀行などを利用することで暮らしを楽しんでもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による内科往診月2回、歯科往診週1回、眼科往診月1回が受けられ、家族と本人の同意と納得のもと協力医療機関の医師をかかりつけ医として支援している。	2人の利用者は従来のかかりつけ医に受診している。家族の同意の下、母体の協力医療機関から、月2回の往診を受けていると共に歯科や眼科の専門医が定期的に来訪され、必要に応じて治療を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理や観察から状態変化、異常に気付いた時は、訪問看護師(正看)との情報連携でいち早く医療機関との受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は随時面会に行き、利用者のストレスの緩和に努め医師、家族と相談し早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けての説明は、早い段階から家族や関係者を交えて話し合い事業所の指針を基にして説明し、同意書も頂いている。	入所時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明し、同意を得ていると共に「延命措置に関する意思確認」や「入居におけるリスク説明」に基づき、家族に十分な説明を実施している。医療連携を構築しており、看護師のチェックも受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員間で応急手当や初期対応の訓練に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時における避難訓練や消火訓練を、夜間想定も含めて利用者と共に消防署指導のもと行っている。	年2回、消防署の立会いの下、災害時の避難誘導訓練を実施している。地域住民との交流が深く、災害時に於いても、地域住民と助け合いの絆が出来ている。法人に勤務する職員が近隣に多く、心強い。	夜間ユニット1人体制時の火災に関し、夜勤する職員がパニックにならないように、より実践的な訓練実施とその頻度を増やす事を期待したいと共に災害時の食料・飲料水・備品等の備蓄を適正に整備する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーを守り、声かけや対応に関しては、職員全員に意識づけを行い利用者がゆったりと暮らせるよう利用者本位の流れを大切にしている。	管理者は就任後、特に職員の言葉使いや接遇で気づいた時は注意し、改善を図っている。呼称は～ちゃんではなく、～さんで統一し、幼児言葉等は使わないように努めている。利用者とは見る・話す・触れる・立つのケアサービスの進化も検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択できるような声かけと表情、態度で本人の希望や好みを把握し、自己決定に結ぶことができるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活パターンを把握して、その人の生活リズムを大切にしながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向を大切に、その人らしい身だしなみ、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部発注で、調理やかたづけは職員と利用者で行う。また、行事食も楽しみ外食も積極的に提供している。	利用者にとって食は大きな楽しみである。朝・昼・晩と職員が交代で手作り料理を提供している。利用者は調理から片づけ迄、出来る範囲で手伝い、音や匂いを感じながら楽しく食事している。食事レクや外食も定期的実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、その都度記録に残し、不足分は工夫して摂取していただいています。また、居宅栄養指導も導入し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口から食べることを重視しているので口腔状態を健やかにして頂き、毎食前の口腔体操、食後の口腔ケアには力を入れている。また、週1回歯科往診を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録、本人の排泄パターンを把握し、基本的にどの介護度の方もトイレでの排泄を促し支援している。	排泄パターンを把握し、日中はさりげない誘導をし、自立排泄が出来るように支援している。布パンツだけで過ごせる方が6人いる。日常的に運動(歩く)・水分補給・食物繊維等を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分量を十分に把握し、排泄記録、排泄パターンを通して経過を観察し、飲食等にも配慮したうえで自然排便につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者の希望を聞きながら、楽しく入浴ができるよう支援している。体調により清拭や足浴等に変更したり、同性介助をしたりと臨機応変に対応している。	原則、週2回は入浴が出来るように支援している。嫌がる利用者は非常に少ない。体調が悪い時は清拭・足浴を行い、同性介助の希望にも応じるよう、支援している。季節を感じるゆず湯・菖蒲湯等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、空調、環境整備などにも気を配りながら、状況に応じて安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬に関しての理解を深めると同時に、誤薬がないよう確認しあう体制を作り、症状に変化がみられないかなど常に、意識づけしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り本人の希望を組み入れ、カラオケ、外食、趣味等や気分転換になることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩の他に、家族とのお出かけ、地域の行事など一人ひとりの要望に応えている。	散歩や買い物等日常的な外出は午前・午後や暑さ・寒さに関係なく、ユニットリーダーの熱い思いにより、支援している。車を使った花見等特別な外出や祭り等地域行事に積極的に参加している。家族との外出も推奨している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい方もあるが、家族様から管理者がおこずかいとして預かり、本人の希望があれば、自由にそれを使うことができる。また、月1回会計報告はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、家族や知人に電話や手紙のやり取りが自由にできるよう配慮し、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は常に清潔にし、快適に過ごせるよう努めている。また、くつろげる場所として、ソファなども置き、居心地よく過ごせる工夫をしている。	居間兼食堂・廊下・浴室・トイレ等は広く、ゆったりくつろげる共用空間となっている。机やソファを適切に配置している。皆で作った貼り絵等の飾り物の展示は利用者にとっても楽しみであり、季節感も感じられるので適切に飾られたら如何でしょうか。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのいい場所にソファを置き、ゆったりとくつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や布団など使い慣れたものを自由に配置し、家族の写真などでそのひとらしい居心地良く過ごせるように工夫している。	馴染みの家具や置物・テレビ等を持ち込み、家族が飾りつけを支援し、家庭と変わらない、居心地よく過ごせる居室となっている。壁には写真や手作り作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態にあわせた、危険防止や自分の力を活かして動ける設備や道具の工夫をしている。		